

# 提 案 概 要

実施期日	8月1日(金)
部 会 名	中学校 社会部会

1 提案テーマ	『社会的事象に関する関心・意欲を高め、知識・技能を効果的に活用させる授業づくり』
2 単元(題材)	歴史的分野「二度の世界大戦と日本」『第二次世界大戦終結までの日本と世界』～沈没船の記録～
3 学年	第3学年
4 平成25・26年度神奈川県中学校教育課程研究会研究主題とのかかわり	

- ②課題追究的な学習や生徒の主体的な学習を重視し、言語活動の充実を図るための教材並びに学習指導と評価の工夫・改善
- ③社会的事象に対する関心を深め、よりよい社会の形成に自ら参画していく資質や能力を育成するための学習指導と評価の工夫・改善

## 5 学習指導要領との関連(内容項目)

第2章 第2節 社会〔歴史的分野〕 2内容(5) 近代の日本と世界

カ 経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを通して、軍部の台頭から戦争までの経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる。

## 6 実践に向けての課題意識

自校の今年度の校内研究のテーマは「目指す授業・やりたい授業とはどんな授業なのか」である。生徒にとって、どのような授業が分かりやすく、又、必要な事が伝わるのだろうか。自分の「目指す授業像」とはどのようなものなのか。社会科の授業を通して、自分は「何を伝え、生徒にどんな力をつけたいのだろうか」等を考える時、扱う資料や教材、授業の進め方は大きな意味をもつと考える。

第二次世界大戦の終結から70年近くが過ぎ、この戦争に関する学習も、ともすれば、歴史の1ページのように扱ってしまいがちである。しかし、第二次世界大戦は現代の世界に今なお大きな影響を及ぼし続けており、生徒達から見たら曾祖父母に当たる世代が多大な犠牲を払った出来事だった事を実感と共に理解してほしい。又、社会的事象に興味関心をもち、知識・技能を活用する能力を育みたいと考え、今回の取組を実践した。

## 7 実践の概要

- ①太平洋戦争において日本軍の進撃により、太平洋地域の戦線が拡大し、これを維持する為に多くの船舶が必要となり膨大な数の商船や客船、漁船などが軍に徴用され、戦争に参加したことを知る。
- ②これらの船が、連合国軍の攻撃によって次々に沈没し、軍人以外にも、どれほど多くの船員、民間人、捕虜等の人々が亡くなったのかや船の沈没地点を資料によって知り、自分達でこれをグラフ化したり地図に表したりする。
- ③作成した資料や太平洋戦線の実情を表す資料をもとに戦争の実態や、当時の人々の生活について自分で考え、それについて感じることを発表したり、疑問点を出したりする。

## 8 成果と課題

- ・日頃授業の中で、資料の読み取りはよく行われるが、自分達の手で資料を作り出す授業は目新しさもあり、ほとんどの生徒は意欲的に生き生きと取り組み、特に地図上での地点特定の技能は大きく向上した。
- ・自分で計算して分かった、沈没による戦死者のあまりの多さに驚き、戦争のすさまじさが感覚的にも伝わったと思う。
- ・資料が示している情報や沈没地点の特定の方法を理解するまでに時間がかかる生徒が多く、出てきた数値や地点にやや正確さを欠く傾向があった。資料の提示の仕方にもう一工夫必要であった。
- ・戦争の実態や戦争がもたらす被害、戦地の様子等について真剣に考える大きな契機になったと思う。

## 9 予想される協議の柱

\*今回の取組では、自分達で資料を作る事により、意識や関心は高まったと思うが、その先に発展させるためにどのような展開や活動が考えられるか。